

あゆみ



日高町スポーツ少年団

目 次

あいさつ

日高町スポーツ少年団本部長	三浦 助蔵	1
日 高 町 長	駒野 昇	2
日高町教育委員会教育長	飯野 五郎	3
日高町スポーツ少年団名誉会長	関 真	4

○ 日高町スポーツ少年団のあゆみ 7～8

日高町スポーツ少年団発足当時の思い出話・歴代役員 9～10

大会の結果

日高町長杯争奪少年サッカー大会	11
日高町長杯争奪少年野球大会	12
日高町長杯争奪ミニバスケット大会	13

○ 各専門部年間大会日程

サッカー部	17
野 球 部	18
ミニバスケットボール	19

○ 各団紹介

高麗川スポーツ少年団	22～23
高 萩スポーツ少年団	24～25
高 麗スポーツ少年団	26～27
高 根スポーツ少年団	28～29
高萩北スポーツ少年団	30～31
武蔵台スポーツ少年団	32～33

○ 日高町スポーツ少年団本部規約 35～37

編集後記 38

ごあいさつ



日高町スポーツ少年団

本部長 三浦助蔵

日高町スポーツ少年団も発足以来14年目を迎えようとして居ります。果立っていった団員が立派な社会人として活躍している姿を見聞きするにつけ心から喜びを感じる次第です。日高町スポーツ少年団が10余年もの長い間活動を続ける事が出来たのも発足のために日夜ご尽力いただきました先輩諸兄の皆様方、又献身的なボランティアの精神にあふれる指導者各位のご好意を初めとし、父兄の皆様のご深いご理解と関係各位のご協力の賜物と、改めて心からの感謝を申し上げます。

日高町スポーツ少年団も58年4月より埼玉県スポーツ少年団の組織に入会し、その活動の内容も県大会、関東大会と大変に広がって来てはおりますが、その活動の内容は未だ十分とは言えず、指導者の育成や地域社会との関係等その他多くの問題をかかえて居ります。スポーツ少年団はスポーツ活動をその活動の中心としているがそれだけでは十分とは言えません。地域社会において活動する団体であり地域に支えられた団体です。したがって団員である少年たちに地域社会の一員で

あることを、常に自覚させるためにも、社会活動を重視することが大切です。身近かな社会活動としては、子供会活動、地域で主催する運動会、文化祭、奉仕活動等がありますが、これらに積極的に参加するように指導することが必要です。最近では青少年を取り巻く環境が悪化しております。日高町ではいち早く各地域に青少年健全育成会を発足させ、活発な活動をしておりますが、スポーツ少年団としても色々な立場でリーダーシップが発揮出来る団員の育成が望まれております。

終りにあたりまして、今日まで日高町スポーツ少年団の育成にご尽力いただきました行政、日高町野球連盟、日高町サッカー連盟、諸団体をはじめ現在も活躍中の指導者の皆様各地域の後援会の皆様、又日高町ロータリークラブの皆様のご多大なご奉仕により近隣市町村のスポーツ少年団を招待して、サッカー、野球、ミニバスの大会を開く事が出来ました。日高町スポーツ少年団の「あゆみ」の発行にあたりまして厚く御礼申しあげましてごあいさつといたします。

団誌刊行を祝って



日高町長

日高町長



日高町長 野 昇

休日にグラウンドあるいは、体育館等で小学生が歓声を上げて球を追っている姿を見ますと、今社会で憂えている青少年非行防止などは、どこ吹く風であり、胸がスーッと致します。これらスポーツ少年団育成に二百名近い指導者がおると聞きおよびあらためて青少年健全成長のため奉仕下さる方々に敬意を表するものであります。近頃の子どもが「無気力」「無感動」であるとか、「けが」をし易い体質であるとか、「物をしゃべらなくなった」とか、欠点を多く指摘されておりますが、スポーツこそ、それ等の欠点を排除する最良の方法であります。

スポーツは体力づくりのみならず「協力性」を養い、また、「忍耐力」を養成し、その上礼儀も正しくなり、人間形成の上で大切なものを修得することができます。体力、協力、忍耐、礼儀は、中・高校生活そして、社会に出て、活躍するにも人として備えておかなければならぬものの基本であります。そして、それらの優れた人ほどより大なる活躍をなし得ることは古今東西の歴史において証する

ところですが。特に少年期に鍛えられたことは、生涯身に付き持続するとともに、自信の糧となります。

少年時代に大志を抱いた人と、思い出を多く残した人が、皆社会で立派に活躍しております。私は、思い出を多く残すために、少年スポーツ指導に当り、体力づくりの基本である野山を駆に廻ったり、川遊びを採り入れて気分転換と体力養成にも効果があると提案致します。更には、多くの指導者の皆さんのコミュニケーションを図り、次代の良き後継者づくりのため、スポーツ少年団の益々の発展をお祈り致します。

団誌刊行を祝って



日高町教育委員会

教育長 飯野五郎

健全育成は、地域からの声がさげられる以前から、すでにスポーツ少年団を結成され、理屈でなく汗を出し合う動きから、育成に強い筋をとおしてこられた積みあげの記録が発刊されました。いままでにたいへんご苦勞されご尽力されました会長さんはじめ関係の方々に、深く感謝いたします。

この団史には、創り出す当時の関係者のご努力、多くの問題を乗り越えて、一途に献身的に育ててこられた、活躍の記録がただの活字でなく何か心に強く感じられる生きた流れが出されております。これを大切に育てていただきたいと願っております。

「伝統は環境を導き、環境は天才を育くみ、天才は伝統を創る」これは仁科博士のことばです。人の育ち特に少年時代の環境がいかに大切であるかは今更申す迄もありません。

この伝統から若い人たちが新しい伝統を創り出すことによって、うけつがれていくものです。このことを考えますとき、多くの方々が尊い時間と愛情を、そそがれて育てられた伝統は生きております。

「目標のある人はいつもあかるい」これから育つ少年たちが、スポーツにうち込み、ボールを追って目を輝かせ、一途にうちこんでの汗と動き、この汗の一滴々々が忍耐力に、協力の大切さに育っていきます。この芽をたく強く伸ばしたい願いをこめて、いよいよのご尽力を願ってやみません。

しかしながらスポーツ少年団には現在の世相から多くの課題もあります。指導者のことや時間のこと、試合関係、家庭の理解等々いつも話題となりますが、本来の筋をじっとみつめ理屈でなく子どもたちの活動の中から、今迄のことを大切にされて、健全育成へのご努力を願ってやみません。団史発刊を機とされ、献身的な関係皆様のご尽力を願って、あいさつといたします。

団誌刊行を祝って



日高町スポーツ少年団

名誉会長 関 真

今を遡る14～15年前、青少年の心身の健全な育成と、親睦を深めようとスポーツ少年団が町内3小学校を軸に、若く情熱豊かな諸先生が、今は亡き平井正三先生を中心に話しが進められ、小学校単位のスポーツ少年団が結成されました。現在では、6スポーツ少年団となり、後援会も出ています。活動内容もサッカー・野球・ミニバスケットとなり各種大会が開催され、県外の大会にも出場するようになってきました。

少年団員も年々増加し、大会の他に後援会の活動が活発化して参り、色々な親睦事業が行われ、21世紀にむかい将来を托す青少年が心身を磨き健康で心豊かな思い出多き時代を過ごし、立派に成長されるよう御協力をいただいている指導者と役員の方々に感謝し、敬意を表する次第でございます。

発足当時を思い起こしてみると、平井先生からの依頼で、連盟会長に推薦されました。社会体育なので、民間人からの起用が良いとの教育長の方針ですが、企画、運営すべては先生方で行っていただいたわけです。

昭和47年12月、第一回町長杯争奪少年サッカー大会が開かれ、翌年少年野球大会、年を追ってミニバスケット大会が開かれるようになったが、悩みも増えてきた。

先生の転出による指導者不足、校庭での練習場が、学校との関係などであるが、対応策としては、町内在住者は転出後も大会指導に当る、役員は当分の間留任、幹事は各学校持ちまわり、傷害保険に加入し、入団は親の承諾を得る、校長会長に学校側の理解・協力を依頼する等、町補助金の二年目からの予算化とようやく基礎がまとまり、次々と各団にも後援会が出来、団員のユニフォームも整備され、待望久しかった父兄による指導者が増えて来て感謝に耐えません。

夢の内に11年間連盟会長を務めさせて戴きました。その間多くの方々の御指導御協力に対し、厚く御礼申し上げ御挨拶いたします。

日高町スポーツ少年団のあゆみ

日高町スポーツ少年団の歩み

昭和48年1月19日

日高町スポーツ少年団連盟が発足する。当時高萩小に勤務されていた故平井昭三先生を中心に、数人の教師がまとまり、「日高町の子ども達を学校教育とは別のもので心身の育成を図ろう」という目的で始められた。会長は関真氏。
高麗川・高萩スポーツ少年団

1月 第1回日高町長杯争奪少年サッカー大会が開催される。

4月 高麗スポーツ少年団が加盟
高根スポーツ少年団が加盟

7月 第1回日高町長杯争奪少年野球大会が開催される。

昭和53年 高萩北スポーツ少年団が加盟

○連盟幹事校高萩小(53・54年度)

11月 日高町長杯争奪ミニバスケットボール大会が開催される。

6年生4チーム。4・5年生

6チームが参加。

昭和55年 武蔵台スポーツ少年団が加盟し、6スポーツ少年団となる。

○連盟幹事校高萩北小(55・56年度)

・スポーツ少年団のあり方について町連盟の総会で話し合いをする。校長会にも協力をお願いする。

8月 日高町ミニバスケットボール交歓大会が始まる。

(試合の機会を増やす目的で)

昭和56年3月 日高町ミニバスケット新人戦が始まる。(5年生を対象)

5月 高萩北アンタレスが西部地区の代表として県スポ少サッカー大会に出場ベスト16に入る。

昭和57年1月24日 日高町スポーツ少年団10周年記念サッカー大会開催。近隣市町村より、10チームを招待し16チームによるトーナメントで熱戦がくり広げられ、高根レグルスが優勝。

○連盟幹事校武蔵台小(57・58年度)

8月 10周年記念野球大会が企画されたが、悪天候のため中止となる。

11月 5周年記念ミニバスケットボール大会が近隣市町村のチームを招待して開催され、高麗川フェニックスが優勝。

・埼玉県スポーツ少年団に加入するかどうかの話し合いがなされる。県体育局的藤沼氏を招き、スポーツ少年団の説明会が持たれる。

・剣道のスポーツ少年団への加入についての話し合いをする。

昭和58年3月 第1回4年生サッカー大会
が開催される。

4月 日高町スポーツ少年団連盟
を日高町スポーツ少年団本部
とし県スポーツ少年団に加入
する。本部長は三補助蔵氏。
この年より、野球・サッカー
ミニバスの各専門部により大
会を運営するようになる。町
教委社会教育課が窓口となる

5月 日高町スポーツ少年団が県
のしらこぼと賞を受ける。

8月 野球BC大会が始まる。
(飯能大会に出場できなかつ
たチームを対象として)

昭和59年 町本部幹事校高根小(59・60年度)

4月 講演会「人生とスポーツ」
早大ラグビー部監督日比野弘
氏を迎えて行う。

11月 高麗川アニマルズが西部地
区野球大会で優勝し、西部地
区の代表として県大会に出場。
・日高町ロータリークラブの後
援について話し合いをする。

昭和60年1月 高萩ジャックス主催のサッ
カーBC大会を町スポーツ少
年団本部が後援をする。

5月 日高町ロータリークラブの
後援による第1回カワセミ杯
争奪ミニバスケットボール大
会が開催される。(5年生を
対象とし近隣市町村にもよび
かける)

優勝は、高萩北チェリーズ

昭和60年8月 西部地区の代表として、埼
玉県スポーツ少年団ミニバス
ケットボール大会に出場した
高麗川フェニックスが埼玉県
代表となり、関東ブロックス
ポーツ少年団交流大会に参加
する。

8月 埼玉県スポーツ少年団軟式
野球大会西部ブロック予選会
を日高町で開催する。

8月 西部地区少年サッカー育成
大会4年の部を日高町で開催
する。

9月 三市サッカー大会を日高町
で開催する。

9月 日高町野球連盟会長杯争奪
少年野球大会を町本部が共催・
日高町ロータリークラブが後援。

10月 スポーツ少年団指導者養成
講習会(Cコース)を日高町
で開催する。31名が受講する。

11月 高麗川アニマルズが西部地
区野球大会で優勝し、県大会
に出場する。

11月 日高町制施行30周年を記
念して、日高町スポーツ少年
団が、町から表彰される。
・日高町スポーツ少年団誌発
行のための編集委員会が開か
れる。

昭和61年1月 サッカーBC大会を日高町
ロータリークラブが後援。

発足当時の 思い出話

この文は、先生方に伺った話を本部でまとめたものです。

○上野幸男先生の話（当時連盟副会長）

独自に活動を続けていた各スポーツ少年団が、町としての組織をつくるきっかけとなったのは、資金面と大会運営面でした。当時、各校の先生方の手によって指導が行われていたのですが、育成会組織もまだなく、練習に使用する用具も学校のを借用するということがあったようです。また、町の大会を持つようにも運営費の出所もないという状態だったので、何とか町の補助をもらおうと考え、そのために組織として、しっかりしたものを作る必要があったということです。そこで、当時高萩小におられた平井昭三先生と高麗川小にいた私等が話し合い、高萩小のPTA会長であった関真氏を会長にお願いし、日高町スポーツ少年団連盟を発足することができました。

しかし、連盟が発足してからも社会体育の位置づけがはっきりできていなかったためにいくつかの問題がありました。学校とスポーツ少年団との関係、育成会の組織づくりなど現在のスポーツ少年団の形となるまでには、いくつかの節となることを通りこしてきていると思います。

最後になりますが、スポ少をはじめた先生方に一貫していたのは、「子ども達のためにスポーツ少年団をやるんだ」という気持ちだということです。

○牧本征雄先生の話（当時連盟常任理事）
スポーツ少年団が、現在のようにしっかりした組織になるまでには、長い年月と様々な苦勞があったものです。

スポーツ少年団の始まりは、日高町に勤務していた若い教員が、学校ごとに放課後、野球・サッカーを指導していたことであつた。まだ、日高町独自の大会はなく、飯能大会や東上沿線の大会に出場していた。そして、日高町スポーツ少年団連盟ができ、日高町大会も開催されるようになったが、まだ、スポーツ少年団・社会教育ということに正しい認識も理解もなく、学校とのトラブルもあったものです。昭和55年に町連盟として、校長会と話し合いを持ち、スポーツ少年団への正しい理解をお願いしたものでした。

教員が主体のスポーツ少年団でしたので、一般の指導者を確保することも大きな課題でした。現在のスポーツ少年団は、昭和55年頃、平井昭三先生が語られた理想の方向へ近づいているようです。

○波田定夫先生（当時高麗スポ少指導者）

私たちが始めた頃は、今のように町全体での活動はあまりなく、各団毎の活動が主でした。私にとってはとても楽しい思い出が多く残っています。

野球が好きだったので、野球の思い出が多いのですが、中でも、日高町のスポーツ少年団で選抜チームをつくり、東上沿線の大会や小川町大会に出場したことがいい思い出です。特に小川町大会では、2回優勝することができました。あの頃毛呂のチームに小沢というすばらしく上手な選手がいました。（川越商業→現在は、西武ライオンズ）大会で対戦し、ピッチャーをしていた小沢を日高選抜がノックアウトしたこともありました。また、

試合に行く時に日高産業の大沢 さんがバスを出して下さったり、野球の日高町大会のための優勝旗を高麗の町田光夫さんが苦勞して用意して下さいたり、スポーツ少年団を支援して下さい方が多く、たいへんありがたく思いました。

高麗小で昭和48年にスポーツ少年団を始めたのですが、当時中学生になっていた子ども達からは、「先生にもっとはやく来てほしかった、おれ達もやりたかったな」と言われたことも覚えています。

○黒川美智子（現姓荒井・ミニバス指導）

男子は野球・サッカーをやっていましたが女子には何もありませんでした。そこで、ミニバスがはじまったわけですが、自分でバスケットをやったことがなかったので、どのように教えていったらいいのかがよくわからず本を片手に指導するといった日が続きました。試合でも負けることが多く、子ども達もあまり熱心ではなかったようで、人数が少なくて練習にならないことがよくありました。当時の大会は、県の大会があるだけで、負けると終わり、試合数も非常に少なかったようです。そこで、日高町でも大会を持つという声がおこり、昭和53年に第1回の日高町大会を開催したのです。審判は男子の指導者をお願いしてやっていただきました。社会体育という意味を、指導者も親も子ども達も正しく理解できていなくて、トラブルもありましたが、ミニバスを通じて、子ども達とのふれ合いも深くなり、新しいものをつくり上げていくという自負と楽しさを感じながら指導していました。

〔歴 代 役 員〕

○日高町スポーツ少年団連盟

会 長 関 真 昭和48年1月～
昭和58年4月

副会長 平井 昭三 昭和48年1月～
昭和58年4月

上野 幸男 昭和48年1月～
昭和58年4月

幹事校

・高麗川小 昭和48年度～昭和52年度
落合好雄・渡辺俊雄・牧本征雄

（常任理事と会計を交互に）

・高萩小 昭和53・54年度
常任理事 新井 正廣
会 計 比留間慶一

・高萩北小 昭和55・56年度
常任理事 松下 友紀・牧本 征雄
会 計 田中 勝・鯉沼 文夫

・武蔵台小 昭和57年度
常任理事 浅見 勲
会 計 後藤 進

○日高町スポーツ少年団本部

本 部 長 三浦 助蔵 昭和58年5月～
副本部長 落合 好雄 昭和58年5月～
井上 征利 昭和58年5月～

事 務 局

・昭和58年度
教育委員会 涌井 和男（幹事）
武蔵台小 浅見 勲（幹事）
後藤 進（会計）

・昭和59・60年度
教育委員会 安原 光治（幹事）
高根小 岡野 一平（幹事）
小山 和彦（会計）

日高町長杯争奪少年サッカー大会結果

4年生の部

回数	年度	優 勝	準 優 勝	第 三 位	回数	年度	優 勝	準 優 勝	第 三 位
1					8	54	高萩北A	高 根A	高萩北B
2					9	55	高 萩A	高萩北A	高萩北B
3					10	56	高 萩A		高麗川A
4	50				11	57	高萩北A	高 根B	高 萩A
5	51				12	58	高 萩A	高萩北A	高 萩B
6	52				13	59	高 根A	武蔵台A	高萩北A
7	53	高麗川A	高 根A	高萩北A	14	60	高萩北A	高 根A	武蔵台A

5年生の部

回数	年度	優 勝	準 優 勝	第 三 位	回数	年度	優 勝	準 優 勝	第 三 位
1					8	54	高麗川A	高萩北A	高 萩A
2					9	55	高萩北A	高 根A	高 萩A
3					10	56	高 萩A	高麗川A	
4	50				11	57	高萩北A		
5	51	高 根B			12	58	高萩北A	高 根A	
6	52	高 根A			13	59	高 根A	高萩北A	高萩北B
7	53	高萩北A	高 根A	高麗川A	14	60	高 根A	高 根B	高麗川A

6年生の部

回数	年度	優 勝	準 優 勝	第 三 位	回数	年度	優 勝	準 優 勝	第 三 位
1	47	高 萩A	高麗川A		8	54	高麗川A	高 根A	高 麗A
2	48	高 萩A			9	55	高麗川A	高 萩A	高萩北A
3	49		高 麗A		10	56		高 萩A	高 根A
4	50	高麗川A			11	57	高萩北A	高 根A	高麗川A
5	51	高麗川A	高 萩A		12	58	高 萩A	高麗川A	
6	52				13	59	高萩北A	高 根A	高 麗A
7	53	高麗川A	高萩北A	高 根A	14	60	高 萩A	高 根A	高萩北A

日高町長杯争奪少年野球大会結果

4年生の部

回数	年度	優 勝	準優勝	第三位	回数	年度	優 勝	準優勝	第三位
1	48				8	55	高 根 A	高萩北A	高麗川 A
2	49				9	56	高麗川 A	高 根 A	
3	50				10	57	高 根 A	高萩北A	高麗川 A
4	51				11	58	高麗川 A	高 根 A	高 萩 A
5	52				12	59	高 根 A	高麗川 A	高 萩 A
6	53	高 根 A	高 根 C	高 根 B	13	60	高麗川 A	高 根 A	高麗川 B
7	54	高萩北 A	高 根 A	高 萩 A					

5年生の部

回数	年度	優 勝	準優勝	第三位	回数	年度	優 勝	準優勝	第三位
1	48				8	55	高萩北 A	高 萩 A	高萩北 B
2	49				9	56		高 萩 A	
3	50				10	57	高 萩 A	高 根 A	高麗川 A
4	51		高 萩 A		11	58	高 根 A	高麗川 A	高 萩 A
5	52	高 根 B	高 萩 A	高麗川 A	12	59	高 萩 A	高萩北 A	高麗川 A
6	53	高 根 A	高萩北 A	高麗川 A	13	60	高 根 A	高 萩 A	高麗川 A
7	54	高麗川 A	高 萩 A	高麗 A	14				

6年生の部

回数	年度	優 勝	準優勝	第三位	回数	年度	優 勝	準優勝	第三位
1	48	高 萩 A			8	55	高 根 A	高麗川 A	高 萩 A
2	49				9	56	高 根 A		高麗川 A
3	50	高 萩 A			10	57	高 萩 A	高萩北 A	高麗川 A
4	51	高麗川 A	高麗川 A		11	58	高 根 A	高麗川 A	武蔵台 A
5	52	高 根 A	高 萩 C		12	59	高麗川 A	高萩北 A	高 萩 B
6	53	高麗 A	高麗川 A	高 根 A	13	60	高麗川 A	高 根 A	武蔵台 A
7	54	高麗川 A		高麗 A	14				

日高町長杯争奪ミニバスケット大会結果

4年生の部

回数	年度	優 勝	準優勝	第三位	回数	年度	優 勝	準優勝	第三位
1					6	58	高麗川A	高 根A	高萩北A
2	54	高 根A	高麗川A	高萩北A	7	59	高萩北A	高麗川A	高 根A
3	55	高麗川A	高萩北A	高 根A	8	60	高萩北A	高麗川A	高 根A
4	56	高 根A	高萩北A	高麗川A	9				
5	57	高麗川A	高 根A	高 萩A	10				

5年生の部

回数	年度	優 勝	準優勝	第三位	回数	年度	優 勝	準優勝	第三位
1	53	高麗川A	高 根A	高萩北A	6	58	武蔵台A	高 萩A	高 根A
2	54	高萩北A	高麗川A	高 萩A	7	59	高 根A	高麗川A	武蔵台A
3	55	高麗川A	高 根A	高萩北A	8	60	高萩北A	高 根A	高麗川A
4	56	高麗川A	高 萩A	高 根A	9				
5	57	高 萩A	高萩北A	高 根A	10				

6年生の部 (Aブロック)

回数	年度	優 勝	準優勝	第三位	回数	年度	優 勝	準優勝	第三位
1	53	高 根	高麗川	高 萩	6	58	武蔵台	高 根	高麗川
2	54	高麗川	高 萩	高 根	7	59	武蔵台	高麗川	高 根
3	55	高萩北	高麗川	高 根	8	60	武蔵台	高 根	高萩北
4	56	武蔵台	高 根	高萩北	9				
5	57	高麗川	高 萩	武蔵台	10				

6年生の部 (Bブロック)

回数	年度	優 勝	準優勝	第三位	回数	年度	優 勝	準優勝	第三位
1					6	58	高 根	高萩北	
2					7	59	高 根	高萩北	高 萩
3					8	60	高麗川	高 根	高麗
4					9				
5					10				

各専門部年間大会日程

サッカー

一年間の大会日程

5月上旬～8月下旬

全国大会

県内各地区（日高は西部地区）の子選勝ち上がりチームで県大会を行なう。（県大会出場チーム数は、登録人数によって各地区にふり分けられる。）そして、県大会優勝チームが全国大会へ、2・3位のチームが関東大会へ出場する。

この大会が、唯一の全国規模の大会である。

西部地区予選

5月上旬～下旬

県大会

6月中旬

全国大会

関東大会

8月上旬

8月下旬

8月下旬

西部地区育成大会

この大会は、西部地区の中で行なわれる学年単位の大会である。

下は、3年生から始まり、4年生、5年生、6年生の4つのブロック別で行なわれる。町内の場合4年生以上のブロックに出場している。

各ブロックとも100チーム前後が参加している。

9月中旬・2月中旬

三市大会

狭山、入間、飯能、日高、名栗の各地区のチームが参加して行なわれます。

9月が6年生中心のチーム、2月が5年生中心のチームが各団の代表として出場しているようです。

11月上旬～12月中旬

県大会

毎年文化の日あたりから予選がはじまる大会です。春の県大会と同じように県内各地区（日高は、西部地区）予選を勝ち上がったチームが、県大会に出場します。

春の大会同様、県大会で勝ち上がっていくと大宮サッカー場で試合をすることができます。

西部地区予選

11月上旬～中旬

県大会

11月下旬～12月中旬

12月中旬～1月上旬

日高町長杯

町内各団全チームが参加して行なわれる大会です。4・5・6年各ブロックに分かれて戦います。

試合を多く経験できるように予選リーグ、決勝トーナメントという形になっている。

2月中旬

第2行政西部広域サッカー大会

行政地区単位の大会で町内から2チーム参加しています。

野 球

一年間の大会日程

5月上旬～

全国スポーツ少年団軟式野球交流大会
埼玉県西部ブロック予選会
日高町代表2チーム参加

この予選会は、西部地区の17市町村の代表32チームがトーナメント戦を行ない上位2チームが県中央大会へ出場する。そして、勝ち進んでいくと関東大会全国交流大会へと繋がる。

6月上旬～7月下旬

埼玉県西部地区春季少年野球大会
日高町の各少年団より5・6年生のチームが、2～3チーム参加（任意参加）

この大会は、主に東上沿線の少年野球約200チームが、北坂戸・上福岡を会場に8週間をかけて、トーナメント戦を行なう。

7月下旬

日高町長杯争奪軟式少年野球大会

この大会は、日高町内のスポーツ少年団の野球大会で、各少年団の4～6年生が全員参加する。Aブロック（6年）Bブロック（5年）、Cブロック（4年）の3つのブロックに分かれてトーナメント戦を行なう。

Aブロックの上位チームは、飯能地方少年野球大会・埼玉県スポーツ少年団軟式野球大会西部ブロック予選会への代表権を得る。

Bブロック優勝チームは、来春の全国スポーツ少年団軟式野球交流大会埼玉県西部ブロック予選会への代表権を得る。

8月上旬

飯能地方少年野球大会

この大会は、飯能署管内防犯協会の主催で、飯能12チーム、日高4チームの計16チームでトーナメント戦を行なう。

8月下旬～9月上旬

埼玉県スポーツ少年団軟式野球大会西部ブロック予選会
日高町代表2チーム参加

9月中旬

日高町野球連盟会長杯軟式少年野球大会

この大会は、少年のスポーツに対する意欲を喚起し、併せて少年たちの相互の親善を図る目的で、日高町野球連盟の主催で、日高町ロータリークラブ後援で行なわれている。対象は5年生で各団2チーム（計12チーム）がトーナメント戦を行なう。

優勝チームは、来春の全国スポーツ少年団軟式野球交流大会埼玉県西部ブロック予選会への出場権を得る。

11月上旬～11月下旬

埼玉県西部地区秋季選抜少年野球大会
日高町推薦2チーム参加

この大会は、春季大会（6月）ベスト8のチームに市町村推薦40チームの計48チームのトーナメント戦によって、優勝を争う。

ミニバスケット

一年間の大会日程

- 5月下旬「カワセミ杯争奪ミニバスケットボール大会」(5年生)
ロータリークラブの後援により、60年度からはじまる。町内と近隣の市町村から16チームを集めトーナメント方式で行う。
- 6月上旬～「入間ボール杯大会」(6年生)
県ミニバス連盟に加盟している西部地区のチームにより争われる大会で秋の西部地区大会のシード権をかけた大会。トーナメント。
- 7月上旬「スポーツ少年団大会西部地区予選」
県スポーツ少年団に加入しているチームにより、県大会出場の代表を決める大会、1位になると7月下旬の県大会に出場し、そこで優勝すると、8月の関東ブロックスポーツ少年団大会に参加できる。60年度高麗川が関東大会出場
- 7月下旬「日高町ミニバスケット交歓大会」
町内の4・5・6年生全チームによって行われる親睦を目的とした大会。4年生にとっては初めての公式戦となる。60年度から、6年生はBチームの大会となった。4年・5年・6年と学年毎に会場を分けて行われている。
- 8月下旬「西部地区ミニバスケット交歓大会」
「入間ボール杯」と同様に県ミニバス連盟に加盟している西部地区のチームにより行われる親睦のための大会でBチームを主として行われている。
- 9月上旬～「西部地区ミニバスケットボール大会兼県大会予選」
西部地区(川越を除く)のチームにより優勝を争うが、県大会の予選としての色合いが強い。60年度は6チームが県大会へ、うち3チームが日高勢
- 11月上旬「埼玉県ミニバスケットボール大会」
県下から予選を勝ちぬいた24チームにより行われる大会
57年度 高麗川フェニックス
59年度 高麗川・武蔵台が優勝
- 11月下旬「日高町長杯争奪ミニバス大会」
町内の4・5・6年生全チームによる大会。4・5年生はトーナメント、6年生はA・Bを分けてのリーグ戦。
- 1月上旬～「埼玉県ミニバストーナメント大会」(県下全チームが参加)
全国大会出場をかけて行われる大トーナメント大会。
57・59年度に高麗川が関東大会へ。
- 3月上旬「日高町ミニバス春季大会」
4・5年生全チームによる大会

各團紹介

高麗川 スポーツ少年団

昭和46年、当時高麗川小学校教諭であった、渡辺俊雄氏の指導のもと、高麗川に少年サッカーチームができ、飯能市のサッカー大会に出場しました。このチームが我が高麗川スポーツ少年団の前身であり、翌47年、町内に少年団連盟結成の動きが起こり、高麗川スポーツ少年団として、正式に発足しました。

当時、団員の指導に当たったのは、先の渡辺氏、同じく高麗川小教諭、牧本征雄氏でした。団員は、高麗川小学校児童4年・5年・6年生、約70名。各学年2チームの計6チームのスタートでした。この6チームをたった2人で指導していたということからも、お2人の少年団に対する情熱を窺い知ることができます。

愛称の「アニマルズ」は、活力に満ちた、野性的な逞しさをイメージしてつくられ、各チームともその名のとおり、キック&ラッシュで豪快に勝ち進んだということです。

48年度からは、野球の活動も始まりました。先のお2人と共に、当時、同校教諭であった上野幸男氏、落合好雄氏も、グラウンドで団員の指導に当たって下さるようになりました。さらに、同校OBで、当時大学のサッカー部で活躍中の新堀孝氏にも指導者の一員となっていただきました。

また、49年度より、高麗川小に奉職された秋吉憲司氏には、野球を中心として、指導していただきましたが、飯能大会での連続優勝や、幾多の大会の中でも参加チームが多く

創立年月日 昭和47年4月

代表者 松倉 龍 司

活動場所 日高町南平沢335 高麗川小

指導者数 46名

団員数 男子161名 女子70名

活動種目 サッカー・野球・ミニバスケット

難関といわれていた東上沿線大会での上位入賞など、輝かしい戦績を残し、アニマルズの名を県西部に高めることとなりました。

これら、サッカー、野球の熱き戦いを観戦の父母の方からも、あたたかいご援助をいただけるようになりました。中でも、青少年の健全育成に深い関心と理解をお持ちだった大沢利一氏は、後援会設立の中心者として、ご尽力くださいました。大沢氏には、初代の後援会長として、団を盛り上げ、さらに後には初代の団長として先の秋吉氏と共に団の育成団組織の確立に力を尽くしていただき、高麗川スポーツ少年団の基礎を築いていただきました。現在も顧問として見守っていただいております。

同じく49年には、女子のミニバスケット部門が設立されました。女子にもぜひスポーツの場をということで、当時同校教諭、鹿山喜代子氏（現姓小田）に指導をお願いしました。団員、5・6年生20名程のスタートでした。翌50年には高萩にもバスケットチームができ、練習試合も可能になりました。間もなく、4年生も加入し、団員も増えたため秋吉氏や、同校教諭の市川昇・朝日圭子・黒川美智子（現姓荒井）・水沢サヨ各氏が加わり、学年毎の指導体制も固まりました。その後一般の方も含め、新しい指導者が増え、月に一度、指導者会議を開き、指導体制の確立を図っています。愛称「フェニックス」の名は西部地区はおろか県全体に広まっています。

高麗川アニマルズ 4年男子



高麗川アニマルズ 5年男子



高麗川アニマルズ 6年男子



高麗川フェニックス

4年・5年・6年女子



アニマルズは、「小学生までは、1つの種目に片寄らず、より多くのスポーツを体験させたい」という立場から、1シーズン2種目制(野球・サッカー)を採り、炎天下のもとで、白球を追い、寒風の中で、ボールを蹴り体を鍛えるとともに、スポーツを楽しんでいます。ここ数年の主な戦績は、飯能大会で、57年準優勝、58年・59年連続優勝、さらに59年・60年と県大会へも連続出場しています。

一方、フェニックスは、年間通じて、バスケットボールに取り組み、55年から連続して、県大会に出場し、さらに、県代表として関東大会にも出場するほどに、力をつけてきました。

ここ数年、後援会の組織づくりにも各会長が、ご尽力くださり、形も整ってきました。

まだまだ、たくさんの課題はありますが、今日までの伝統と、現在・未来の団員、父母指導者のエネルギーは、いろいろな壁に、ぶつかりながらも、それら乗り越え、さらにすばらしい高麗川スポーツ少年団を築いていくことを確信しています。

高麗川スポーツ少年団 後援会

会長	50. 7 ~ 56. 3	大沢 利一
	56. 4 ~ 57. 3	武野谷貞夫
	57. 4 ~ 58. 3	宮崎 豊治
	58. 4 ~ 59. 3	新堀 勝夫
	59. 4 ~ 60. 4	関口 六郎
	60. 4 ~	丹下 敏男

高麗川スポーツ少年団

団長	56. 4 ~ 58. 3	大沢 利一
	58. 4 ~	松倉 龍司
副団長	56. 4 ~	尾島国太郎
	56. 4 ~ 58. 3	滝本 音松
	58. 4 ~	宗方 紀夫

高萩 スポーツ少年団



高萩ジャックス

団が結成されて13年、この歩みを語る前に先ず団の年間行事と活動を紹介します。

年間行事 ○元旦マラソン大会

元旦の早朝全部員が集い高麗神社往復（初詣を兼ねる）後、初ゲリを楽しみモチ等を頬張る楽しい一年の出発です。

○地域清掃活動 月1回（第1日曜日）の空カン拾い。始めた頃（2年前）は小型トラックに一台以上もありました。最近では本当にきれいになりましたね。と地域の方々も口々にはげましてくれる昨今です。

○年3回の廃品回収。この行事は高萩地区全世帯の方々にご理解を求めて行われます。この収益金で団のユニフォームを全て求める事が出来、団員である子供さん全員が高々として練習に頑張っております。これも地域の方々の心暖まるご協力の賜ものと感謝しています。

○団運動会。子供達はもちろんの事親御様も全員参加で行われる運動会。この日ばかりは童心に返って楽しい1日を通します。

○高萩スポ少主催ジュニア大会（6年BC）

創立年月日	昭和47年10月1日
代表者	比留間 慶一
活動場所	日高町高萩799
指導者数	23名
団員数	210名
活動種目	サッカー・野球・ミニバスケットボール



高萩エンジェルス

3年前開催され今年で第3回大会を迎えます。大会の主旨は、普段あまり試合に出られない子を中心に設けられたもので町内各団のBCチームと当高萩スポ少と練習試合を組んだ町外のチームBCの参加で行われる大会であります。この主旨に共鳴された日高町ロータリークラブの方々が今年度（61年）より後援してくれる事が決って、増々力強い活動が期待され、地域に根をおろした健全な青少年育成のために、力強く活動しつつあります。

○卒団記念合宿（6年生のみ） 少年自然の家を利用し行われるこの行事は、子供達にとって深い思い出となっています。伴に頑張って来た3年間の思い出等を語り合い、友の絆をより一層かたくする事で設けられました。身心共に鍛えられたスポーツ少年団卒団生の姿が送り出す役員もホッと満足出来る日です。又この子達を支える親の会の活動も非常に活発で、どの大会にも応援の声高く、勇気百倍の子供達に好プレー、珍プレー続出で泣き笑いの観戦の中で、自然に和を広げながら、団結しております。

次に団活動ですが、男子が高萩ジャックス女子が高萩エンジェルス、として活動が行われています。

ジャックスの活動場所は、高萩小学校校庭で行われ、4年生から6年生まで120名が放課後を含め、週5日位の練習に励んでいます。

広い校庭でも、100名以上の子が、それぞれに練習を始めると、本当に狭く、団活動の悩みですが、子供達には、「ゆずり合う」という素晴らしい心が、自然に養われています

この活動も、10月から3月迄はサッカー、4月から9月迄は野球と、男子は全員、両部に在籍する事です。春期、秋期に子供達は、「ヘンシン」するのですから、本当に大変だと思います。このように大変な中で、子供達は着実に力を伸ばし、各種大会で、日頃の練習成果を発揮し、サッカーでは、県大会出場、日高町大会や三市育成大会、西部地区大会、飯能大会、毛呂山大会、読売大会等種々の大会で、上位成績を残しています。野球では一般指導者にエキスパートが多く、日高町大会を頂点に各種大会にはたえず上位を保っており、内容の濃い指導のおかげで、大人顔負けの高度な技術を見せてくれます。以上の様に厳しい練習の中で、倣と和が自然に育ち、スポ少本来の、心身共に鍛えるという目的が高萩ジャックスでは、至極スムーズに培われております。

次に高萩エンジェルスですが、昭和53年高萩小が、高萩北小と分かれた年に、エンジェルスとして活動を始めました。

当時は5・6年生だけで活動していましたが昭和56年からは、4年生を加え、人数が多く増えました。また活動日も、週に4日となり、技術が年ごとに向上し、県大会にも出場できる様になりました。

指導は、発足当時、教員だけでしたが、徐

々に一般指導者を迎え、現在では、一般指導者中心の指導に変わって来ています。

団員が210名を越した今では、技術的なことだけでなく、スポーツマンとしての、マナーや態度を身につける様に練習に励み、試合の勝ち負けよりも、楽しみながら内容を培養出来る指導の方針をとっています。

現在この様な高萩スポーツ少年団も、昭和47年初秋、今は亡き平井先生が始められました。当時は体育主任でした先生が、子供達の体力の衰えを感じられ、仲間の先生方々数人で、小学校の校庭を利用し放課後、スポーツを通じて子供達の心身を鍛えて行く決意で始められたそうで、これが高萩スポ少の前身であります。

翌48年、サッカーに次いで野球部が結成され、現在の高萩ジャックスが誕生し、団員20数名でスタートしました。

当時の指導者は、先生方だけで、地域協力者もなく、どこに行くにも先生の車。暑いと言ってはアイスを買う。これも先生の自腹。地域社会に根をおろすなど、到底考えられない、全て先生方にオンブにダッコの状態で、試合の方も出ると負けがあたりまえで、何かと気弱になりがちな子供達を勇気づけるのに大変苦勞されたそうです。

昭和53年、サッカーで、西部地区大会にて3位。この頃地域の方々も先生方のボランティアに気付き、地域協力者が1人2人と現れ、現在では、協力者14名、教職員9名の指導者です。地域社会に健全な青少年を育成するため、地域の方々のご協力のもと、着実に歩を進めたいと思っております。

スポーツによって、友情と協力と歓びを学び、限りなく伸びる子供達の力を作りだすため、指導者、役員、全ての保護者は、一丸となって、団活動を守っていくつもりです。

高麗 スポーツ少年団

昭和48年4月、高萩小より転任された波田定夫先生が中心となり創設された。当時は日高町地区内三校の学校対抗のソフトボール試合が行なわれていて、熱心な教員達が放課後指導していたものが、時代の要請か防犯協会などの肝煎りもあって少年少女の健全育成を目指すものとして組織されたようである。

当初、「麗和スポーツ少年団」と名称し、4年生以上の男子のみの加入で、その指導は主として教員があっていた。また、保護者の中の有力者が後援会を組織し子どもたちのために尽力してくれた。

昭和50年代初め、武蔵台団地の開発に伴って児童数が増加し、若い先生方も増えて熱意をもって指導した結果、日高、飯能地区大会において「レイワ」の名を知らしめたが、近年児童の減少やその運営の仕方、考え方等において成績至上主義をとっていないので、各大会等においては今一步の健闘及ばずということも多い。

しかし、子ども達の加入率は学年の約5割を占め、なかなかの人気である。これも偏へに指導者方の熱意と愛情によるところが大きい。過去の栄光や経緯はともかく、地域に根ざし、地域に支えられた高麗スポーツ少年団は真の社会体育の一環として、日高町の中でも縮たるべき集団を目指して、現在その歩み

創立年月日	昭和48年4月1日
代表者	黒米貞雄
活動場所	日高町立高麗小学校
指導者数	23名
団員数	104名(男子59名、女子45名)
活動種目	野球、サッカー ミニバスケットボール

を進めている。

保護者の中から「スポ少に入ってたくましくなった」「お父さんと本気でキャッチボールしている」「試合という経験の中で頑張るといことが本当に分かったようだ」などの声を聞く。今後このような体験が子ども達の人生の中で必ず生かされていくだろう。

また、自分達が大人になった時、自分達が子ども達のために尽力してくれる人間に育ってほしい。高麗地区には代々この地で生まれ学び生活している人が多い。そうした地域の特性を生かしたスポーツ少年団活動を今後とも邁進させていきたい。

<沿革>

昭和48年4月 創立 麗和スポーツ少年団と称す

昭和53年4月 ミニバスケット部創部

昭和54年4月 団員数が最大となり、各種大会で大活躍する。

昭和57年4月 高麗スポーツ少年団と改称し地域に根ざした少年団を目指す。

昭和58年4月 埼玉県スポーツ少年団連盟に加入する。

昭和60年7月 団旗制定 前団長井上征利氏より寄贈さる。

<野球部>

野球の練習期間は4月から8月までの5ヶ月間である。7月末に開催される日高町少年野球大会を目指して練習に励んでいるが、近年高麗小学校区の児童数が減少し、学年2チームが組めるかどうかであり、必ずしも好成績を上げているとはいえないが、「勝つこと」のみ目標にしていない。

練習は土、日のみで地域の人達が多忙な仕事の合い間を都合して指導してくれている。どの指導者も子ども好きで、かつて自分達が野球に熱中したその想いを少しでも子ども達に味合わせたいと頑張っている。チームワーク、フェアプレイ精神、礼儀など基本的なことを特に大事な点として指導している。

<サッカー部>

サッカーは9月から3月までが練習期間である。前半の3ヶ月は体力作りと基礎的な練習とし、後半は試合を中心とした展開や連携プレーの練習をする。比較的小柄な子の多い高麗の子は動きは素速いが、キック力が非力で、また土地柄かどこか人の好きが出て試合中에서도譲ってしまうような場面が多い。

しかし練習熱心で寒風の中ファイト一杯走りまわる。指導者の厳しく暖かい教えは保護者の中にも感謝の声が高い。



<ミニバスケット部>

ミニバス部は現在部員45名、指導者5名、理事1名で構成され、毎週土曜日午後と日曜日午前の練習に励んでいる。以前は体育館が中学校と併用だったため、やむを得ず校庭で練習していたが3年前より体育館が専用して使用できるようになった。

ミニバスの活動が始まった頃は教員がその指導の中心であったが、その後地域の人達に声を掛けて指導者の人材発掘に努め、現在では本格的に地域の人達が教えてくれているという理想的な形になってきている。

週2日ではあるが、厳しい練習を通じてのチームワーク、人と人のつながりを通して相手をおもいやる心の育成、ひいては人間としてのやさしさ、思いきりぶっつかっていくことの大切さなどを学んで欲しいというのが指導者達の願いである。



高根 スポーツ少年団

高根スポーツ少年団が発足したのは、さかのぼること今から13年前の昭和48年4月でした。当時、鹿山の雑木林が日本住宅公団により開発され、大規模な高麗川団地が建てられて、入居が始まっていた。その中に高根小学校が開校したのが、昭和48年1月でした。開校と共にスポーツ少年団の発足のために、当時高根小の教員であった戸田恵氏と現日高町スポーツ少年団本部長三浦助蔵氏が力を尽くされ、4月の末に発足のはこびとなりました。現在、野球、サッカーの愛称の「レグルス」も、この時誕生しましたが、レグルスというのは、夜空に輝く星座、しし座を構成する星の一つで、現在では、西部地区までにも、その名が知れわたっています。

その後、高麗川団地の入居者の拡大や周辺に東急の住宅が造成されたことにより、年毎に高根小学校の児童数が増えると共に、スポーツ少年団の団員の数も増えてきました。その頃になると、子どもたちは着実に力をつけ各種大会で日頃の成果を発揮し、立派な成績を残すまでに成長しました。

そして、昭和52年になり、高根スポーツ少年団にもミニバスケットのチームが誕生するにいたり、黄色い歓声が体育館にあふれるようになりました。豊富な練習量と強い精神力により、現在では、西部地区の代表として県大会に出場し立派な成績をおさめるまでに成長しました。

活動内容については、各スポーツの技術の

創立年月日 昭和48年4月1日

代表者 松田 健二

活動場所 日高町中鹿山523の3

指導者数 32名

団員数 182名(男121名、女61名)

活動種目 サッカー、野球、ミニバスケ
トボール

向上はもとより、空き缶拾い等のボランティア活動や会員の親睦を深めるための焼きそば会や国立赤城青年の家での合宿をしています。

高根スポーツ少年団は、このように年毎に発展して、地域に根をおろした健全な青少年育成のための組織となっています。これもひとえに、初代団長三浦助蔵氏、二代目団長伊藤幸平氏、現団長松田健二氏をはじめ後援会の方々、OB会の方々並びに指導者、ご父兄の皆さんのご努力のたまものと思います。ここに誌面をかりて御礼申し上げます。

〔野 球〕

夏の炎天下、汗まみれになり白球を追う子どもたち、青春を野球一筋に練習に励む子どもたちの熱き想いを思うと、指導者の手に力がこもります。

昭和48年4月に結成以来、基礎体力の充実を柱にして野球技術の向上をめざしてきました。また、野球を通して礼儀、規律、協力など道徳的価値も培ってきました。このことにより、高根地区の青少年の健全な育成のために少なからず貢献してきたように思います。

各大会では、鍛えぬかれた強健な肉体と、ピンチにも動じないたくましい精神力で立ちむかい、立派な成績を残しています。昨年度行なわれた西部地区野球大会では準優勝するなど大きな大会でも立派な成績を残すまでに成長してきています。これも関係各方面の方々の地道な努力の積み重ねのたまものと感謝しております。



主な大会での成績

- 昭和49年度飯能大会 準優勝
- 昭和55年度飯能大会 準優勝
- 昭和59年度西部地区大会 準優勝
- 昭和59年度会長杯野球大会 優勝

〔サッカー〕

「ナイスシュート!」

おどろあがる高根のイレブン、歓喜の渦に包まれる応援団、毎日の厳しい練習が花開く時である。

高根スポーツ少年団サッカー部は、高根小開校と同時に、夏期の野球に対して、冬期のスポーツとして活動が始まりました。サッカーの技術の向上はもちろんのこと、足腰の強化をはじめ、忍耐、協力等精神面の強化につ



いても大切な目標として活動してきました。

その後、子どもたちは、着実に力を伸ばし各種大会で日頃の練習の成果を発揮するまでに成長してきました。

それと共に、ご父兄の皆さんの関心も高まり、強力なバックアップにより、ますます充実した活動となってきています。

主な大会での成績

- 昭和55年度飯能大会 準優勝
- 昭和56年度飯能大会 優勝
- 10周年記念大会 優勝
- 昭和57年度飯能大会 第三位
- 昭和58年度毛呂山大会 優勝
- 昭和59年度毛呂山大会 第三位

〔ミニバスケットボール〕



昭和52年、日高町としては3番目のチームとして、高根スポーツ少年団にもミニバスケットボール部が誕生しました。団員は、4、5、6年生を合わせても十数名という少人数ながら、6人の若い女の先生の指導のもと熱心に練習をしました。

翌年、日高大会が始まり、わがミニバスケットボールチームも参加しましたが、ユニフォームがなく、学校の仲良し運動会のユニフォームを着てプレイしたということです。

その後、男子指導者や一般指導者が誕生すると共に、ユニフォームが整備されたり、チームの愛称「コスモス」が命名されるなど、各方面の方々のご努力により、その活動は、一步一步前進してきました。

そして、日頃の練習成果を発揮すべく、各種大会では、上位入賞を果たすと共に、ここ数年、西部地区の代表として県大会へ出場するまでに成長してきています。

主な大会での成績

- 昭和56年度県大会 出場
- 昭和59年度県大会 第3位
- 昭和60年度県大会 第3位

高萩北 スポーツ少年団



高萩北アンタレスの活動のあらまし

結成当時は、まだ学年単位としてはまとまっていたものの、団全体としては十分にまとまりきれず、組織もしっかりとは確立されていなかった。指導者も教員と地域の理解ある方々数名によって活動を支えてきたが、技術の向上とともに、徐々にではあるが、団活動も活気づいてきた。それとともに地域の人々の理解も次第に浸透し、積極的に指導を引き受けていただく方が多くなってきた。こうして、指導者層の充実と合わせて、後援会の発足、協力的な援助により、地域に根をおろした健全な青少年育成のための活動はしっかりと歩み続けている。

練習は、年間を通じて、毎週火・金を除く放課後及び日曜日の午前を利用し行なっている。子どもたちの基礎体力・技術の向上、精神面の強化を図っている。

チーム結成以来、町の大会あるいは、各大会においてもめざましい成績をおさめており、今後一層の精進を続け充実した活動にしていきたい。

創立年月日	昭和53年4月15日
代表者	清野 武
活動場所	高萩北小校庭・体育館
指導者数	20名
団員数	210名
活動種目	野球・サッカー・ミニバス



高萩北チェリースの活動のあらまし

チェリースの加入学年は、4・5・6年生の女子である。加入募集のパンフ(スポーツ少年団の手引き)を配布し、少年団を理解してもらい、その理解の上に入部希望者には団則と申し込み書を渡し、入会金1500円とともに申し込みをすることになっている。

チェリースの指導方針は「来るものは拒まず」である。つまり、少年団の目的、高萩北スポーツ少年団の主旨を生かすため(少年の人格の形成・心身の鍛錬)である。そして、高萩北地区の少年たちの体力の底辺を支えるためである。

現在、各学年30名程度の団員を各学年2名ずつの指導者が担当し指導している。

活動は、土・日曜日を中心に行なわれている。活動内容は、運動能力のバラつきの多い団員を心をこめて指導する指導者の苦勞苦心それを支える後援会の連携の上に基礎練習、練習試合、各種大会への参加等である。また、あい間をみては、指導者と後援会と団員とで会食や遠足、合宿を実施している。

高萩北スポーツ少年団の歩み

53年4月、高萩北スポーツ少年団結成。団長平井満州男氏、後援会長太田富七氏を初代とする団を組織し、活動の第1歩をしるした。この時は、野球、サッカーを中心とした活動（女子は4年のみ）であった。名称を高萩北アンタレス、高萩北チェリーズとし、以後ユニホーム等、赤を主調とした色に整え、燃えるような闘志と精神力を培うこと、また地域の発展に尽すことを指導者同志互いに確認し合い活動を始めた。

54年度

結成以来2年目を迎えたこの年、本格的に女子ミニバスの活動が開始された。4・5年を中心に現在に至る基礎固めの時期でもあった。当時は、児童にも十分に活動の内容が理解されず、入団した児童数も少なくどの学年もチーム作りには苦勞したようである。また指導者も少なく指導も十分でできなかった。

55年度

次第に団活動も充実してきた。2代目楠本昌治団長、引き続き太田富七後援会長を中心に、さらに発展、充実した年であった。男子の活動は軌道に乗り、女子も4・5・6年と各学年とも入団してその数も多くなってきた。また結成以来2年間は、教員を中心とした指導であったが、この年から地元の指導者が多数入ってこられ、指導体制の充実も図られた。これにより、男女の活動も活気に満ちあふれるようになってきた。

56年度

この年は、6年生の活躍が目立った。2年間着実に力を貯えてきた力が、みごと開花した年であった。野球、サッカー、いずれも優勝ないしは、上位入賞といった好成績をおさめた。

また、他学年の技術の向上もみられた。

57年度

団長橋本昌治氏、2代目後援会長小林淳一氏のもと、前年に引き続き好成績をおさめた年であった。中でもサッカーは、4・5・6年と日高町大会で完全優勝し、これは団結成以来初めてのことであり、団関係者をはじめ地域の人々にも大変喜んでいただいたものである。

58年度

団活動も一層充実していく中で、この年の11月、団・後援会主催の第1回運動会が開催された。現役はもちろんのこと、OBや家族も含めたすばらしい大会がもてた。

この頃から、女子ミニバスの指導体制も確立し、ミニバスもすばらしい成績をあげてきた。

59年度

3代目団長清野武氏、小林淳一後援会長を中心に活動を展開、この年は6年、女子4・5年の活躍が目立った。

60年度

59年度に引き続き、各大会に上位成績をあげ現在に至る。

この8年間多くの方々のご理解とご協力をいただき、着実に発展してきた団活動をこれからもますます充実させ、地域の方々から愛される高萩北スポーツ少年団をめざしていきたい。

主な成績

- ・毛呂山サッカー大会優勝（55年度）
- ・サッカー県大会ベスト16進出
- ・中部地区大会優勝（56年度）
- ・三市大会優勝 4・5・6年日高町サッカー大会完全優勝（57年度）
- ・西部地区野球大会ベスト16（59年度）

武蔵台 スポーツ少年団

日高町の西、高麗駅の南側にそびえる多峯主山の麓に、大団地が出来上り、昭和52年度より入居がはじまり毎日に活気が増してきました。ここに日高町の一地区として、武蔵台団地が発足しました。毎年入居者が増つづけ、それに伴って児童も多数増えてきました。しかし武蔵台団地内には小学校が無く、地元の高麗小学校へ通学し、高麗地区の児童と共に、勉学、スポーツと楽しく過ごしてまいりました。昭和55年4月団地内に待望の武蔵台小学校が開校され、団地内の児童は、緑に囲まれた校庭で、ピカピカの新校舎で、勉学に、スポーツに、のびのびと躍動してきた時期でした。

新校舎に上原校長先生（現 入間市立藤沢北小学校長）を初め先生達も他校から異動され、いろいろ会議を重ねている内に、どうも武蔵台小の児童は、東京、埼玉、神奈川、等各地から入居して来た為、他校に比べて、体力、気力、精神力、集団での協力性、等が少し足りないような気がする。そこで何かを集団でやらせて見ようと意見が出て来ました。

町の他校に目を向けたところ、日高町では各学校区ごとに、スポーツ少年団が組織され運営されていました。スポーツ少年団の運営、指導者は、本来父母で行なわれますが、武蔵台団地では入居以来、日も浅く、団員の募集指導者の協力お願いも、すぐ間に合わない為に、学校側で浅見先生（現 狹山市立御狩場小学校教頭先生）を中心に、準備、団員募集、

創立年月日 昭和55年5月8日

代表者 橋本正博

活動場所 武蔵台小学校

指導者数 26名

団員数 154名

活動種目 野球・サッカー

ミニバスケット

各部担当の指導の先生方で、又、父母代表で初代団長に山本忠氏にお願いし、集団でスポーツをやる為、4年生以上を対象にし、ここに昭和55年5月、武蔵台スポーツ少年団が発足しました。

発足と同時に、日高町スポーツ少年団連盟に登録し、それ以後は毎年団員募集、指導者の募集等を、学校側、父母側と一緒に運営を行って来ております。

最近は父母側で団長、各部長、代表指導者、副代表指導者、会計、年間プログラムの計画、立案、野外活動等が実施され、スポーツ少年団本来の姿になりつつあります。しかし対外試合の連絡等は学校の担当の先生と他校の担当先生とで日程等調整が必要な為、事務局として学校に置いて有ります。

毎年技術、体力、精神力、等が向上して、良い結果が出ております。

現在武蔵台スポーツ少年団では、サッカー部、野球部、ミニバスケット部の3部から成り立っています。

参考までにミニバスケット部を例にとり、発足以後の成績は次の通りです。

スポーツ少年団		ミニバス連盟	
	町大会	県大会	県大会
55年			
56年	優勝		3位
57年	3位		
58年	優勝	準優勝	3位



〔ミニバスケット部〕

59年	優勝	準優勝	優勝
60年	優勝		2位

サッカー、野球も、毎年技術、体力、が向上し、高成績をおさめています。



〔野 球 部〕



〔サッカー部〕

又日高町スポーツ少年団連盟も、昭和58年に、埼玉県スポーツ少年団に加入し、今後ますますスポーツ少年団の重要性が認められてくるものと思われます。

最後になりましたが、日本スポーツ少年団指導者綱領には次の項目が記載されています。

1. われわれは、次の世代の文化と社会を創る人である少年を育成するために全力を尽くす。
1. われわれは、新しいスポーツ観に立ちスポーツが少年の全人的教育に極めて大きな役割をもっていることを確認する。
1. われわれは、スポーツを通して、少年に内在する無限の可能性を開発する責任がある。
1. われわれは、理知の光に照らされた愛の感情をもって、少年とともに歩む。
1. われわれは、同志とともに、民族ならびに世界の平和と繁栄のために努力することを誓う。

日高町スポーツ少年団本部規約

日高町スポーツ少年団本部規則

- 第1条 本団体は、日高町スポーツ少年団本部（以下本部という）と称する。
- 第2条 本部は、日高町教育委員会事務局内におき、事務所は本部長指定の場所におく。
- 第3条 本部は、日高町内における各スポーツ少年団をもって組織する。
- 第4条 本部は、スポーツを通じて少年の心身の鍛錬と健全なる育成をはかる。
- 第5条 本部は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
- (1) スポーツ少年団の登録
 - (2) スポーツ少年団の指導者及びリーダーの養成
 - (3) スポーツ少年団を主体とする各種スポーツ大会の主催及び後援
 - (4) スポーツ少年団の指導者及び団員研修会の開催
 - (5) 県内スポーツ少年団との交流
 - (6) 関係諸団体との連絡、調整
 - (7) その他、目的達成のための事業
- 第6条 本部に次の役員をおく。
- (1) 本部長 1名
 - (2) 副本部長 2名
 - (3) 理事 若干名
 - (4) 幹事 2名（うち1名教委）
 - (5) 会計 1名
 - (6) 監事 若干名
 - (7) 顧問 若干名
- 第7条 役員の選出は、次のとおりとする。
- (1) 本部長、副本部長は、日高町在住または在勤し、青少年のスポーツ振興に深い理解を持つ人を理事会において推薦し総会において承認を得る。
 - (2) 理事は、次の各号により選出し、定数は別に定める。
 - ア、各スポーツ少年団の団長及び各専門委員長
 - イ、日高町体育協会及び野球連盟、サッカー連盟等の代表者
 - ウ、町内在住、在勤の学識経験者
 - (3) 幹事及び会計は、理事会の承認を得て本部長が委嘱する。ただし1名は教育委員会事務局職員とする。
 - (4) 監事は、理事会において選出する。
- 第8条 役員の任務は、次のとおりとする。
- (1) 本部長は、本部を代表し、会務を総括する。
 - (2) 副本部長は、本部長を補佐し、本部長事故あるときはその職務を代行する。
 - (3) 理事は、理事会を構成し、本部の予算、決算、事業計画、役員の変更、規則の改正等、重要事項を審議する。

- (4) 幹事は、理事会の決定に従い、会務を執行する。
- (5) 会計は、経理を処理する。
- (6) 監事は、経理を監査する。
- (7) 顧問は、本部長の諮問に応じて会議に出席することができる。

第9条 役員の任期は、次のとおりとする。

- (1) 役員の任期は、2ヶ年とする。但し、再任を妨げない。
- (2) 役員が欠員したときは、理事会において補欠役員を決定する。なお任期は、前任者の残任期間とする。

第10条 本部に、理事会の承認を得て、名誉本部長、参与をおくことができる。

第11条 総会は、本部長、副本部長、理事、幹事、会計、監事等の役員及び各団の指導者をもって組織し、本部長が召集し議長となり重要事項を審議、決定する。但し、理事会をもってこれに代えることができる。

第12条 会議は、定員の半数以上をもって開き、出席者の過半数をもって議決される。

第13条 本部に専門委員会をおく。専門委員会の規約は別に定める。

第14条 本部の経費は、次のもので支弁する。

- (1) 負担金
- (2) 補助金
- (3) その他

第15条 負担金の額は別に定める。

第16条 本部の会計は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

第17条 本規則執行上、必要な細則、規約等は、理事会において定める。

第18条 この規則は、昭和48年1月19日より施行する。

- 昭和55年5月31日改正
- 昭和57年5月15日改正
- 昭和58年5月29日改正

細 則

第1条 理事の定数は、次のとおりとする。

- 各団より1名
- 各専門部より1名
- 日高町体育協会より1名
- 日高町野球連盟、サッカー連盟より各1名
- 学識経験者若干名

第2条 負担金の額は、次のとおりとし、毎年5月31日までに事務局に納入する。

- 団員1名につき 300円
- 指導者1名につき 500円

専門委員会規約

第1条 本部に次の専門委員会をおく

- (1) 野球委員会
- (2) サッカー委員会
- (3) バスケット委員会

第2条 各専門委員会の主な事業は、次のとおりとする。

- (1) 日高町スポーツ少年団主催の各種大会の企画、運営
- (2) 交流試合等の企画、運営
- (3) その他

第3条 各専門委員会に、次の役員をおく。

- (1) 専門委員長 1名
- (2) 同副委員長 1名
- (3) 会計 1名(副委員長が兼ねることができる。)

編 集 後 記

日高町スポーツ少年団も発足以来14年目を迎えることになりました。発足当時の役員・指導者も町外に移動され、当時の様子を知る人が少なくなっていました。この団誌は、本部・各団が誕生してから、どのように組織の充実をはかり、子ども達の成長に手助けしてきたかを、記録としてまとめたものです。

発足当時の子供達も成長し、社会人となり、少年団の指導者として団の運営にも参加しております。これからも、先輩諸氏の力によってつくりあげられたスポーツ少年団がますます発展するようにがんばっていききたいと思っております。

最後に、この団誌発行に際し、御協力をいただいた関係者の方々に、心から御礼を申し上げます。

昭和61年2月

日高町スポーツ少年団誌編集委員会

編集委員

- 橋本 正博 (武蔵台スポーツ少年団)
- 小峯 勝成 (高麗スポーツ少年団)
- 大森準一郎 (高麗川スポーツ少年団)
- 鈴木登喜夫 (高根スポーツ少年団)
- 熊坂 拓志 (高萩スポーツ少年団)
- 難沼 文夫 (高萩北スポーツ少年団)
- 岡野 一平 (日高町スポーツ少年団本部)
- 小山 和彦 (日高町スポーツ少年団本部)
- 安原 光治 (日高町スポーツ少年団本部)

協力 日高町教育委員会社会教育課